

たかおか 社協だより



2026
1
vol.81



福祉の視点から考える 「住みたいまち 高岡」をめざして

もくじ

- * 高岡市長×高岡市社会福祉協議会会长対談
- * 第20回 高岡市社会福祉大会
- * 生活支援コーディネーター通信
- * ボランティア情報

福祉の視点から考える 「住みたいまち 高岡」を めざして



高岡市社会福祉協議会（以下、市社協）では、「みんなで支え合い、みんなが『あっかり』して生活できる地域共生社会」を目指しています。

今回は、出町市長と炭谷会長に「住みたいまち 高岡」の実現に向けて、ご対談いただきました。

まちづくりの原点

出町市長（以下、敬称略）：私がまちづくりで常に思うのは、光の当たる人だけが生きやすいまちではいけないということです。チャレンジしたいのにできない人、やりたくても諦めてしまっている人、孤独に日々を送っている人——その一人ひとりも高岡市民であり、このまちを支える仲間です。「誰一人取り残さない」とよく言いますが、実際には取り残されている人がいます。その人たちにどう寄り添い、ともに歩むか。本当に難しい課題ですが、市役所だけでも、市社協だけでもできない。地域全体で一步一步進んでいくことが大切だと感じています。

孤立・孤独のないまちをどう築くか

炭谷会長（以下、敬称略）：市長のお話から「誰もがやりたいことにチャレンジし、実現できるまち」というイメージを持ちました。多くの人は、やりたい気持ちを本当は持っておられると思います。でも最初から諦めてしまっている人がかなりいらっしゃると思います。だからこそ、その人が“ここに居ていいんだ”と感じられるまちの風土が必要です。住民同士、お互いの存在を自然に認め合う雰囲気をどう作っていくのかが大切だと考えています。

出町：本当にその通りです。チャレンジしたいかどうか以前に、ただ寂しく暮らしている方がたくさんおられる。私ができる小さなこととして、散歩中に「おはようございます」と声をかけるように心がけています。自治会長をしていた時、孤独死された方がいて、どうして見つけられなかったかな、もっと声をかけられたのでは、と思うことがあったからです。地域がある意味“家族のような関係”で結びついていければと考えています。

炭谷：地域に気になる人がいた時に、誰かと「あの人

が気になるけど、関わっとったりするけ」と確認し合えるまちになっていくといいと思います。例えば、民生委員・児童委員や福祉活動員がいますが、なり手不足のため、80代の方が活動を続けている地域もあると聞いています。そんな状況を見ると、民生委員・児童委員や福祉活動員などの役割を無理なく担ってもらえるように地域で工夫したり、個人の小さなことから「やってみようか」とチャレンジしたりする気持ちが大切になります。

出町：私もそう思います。こうした気持ちの共有を地域の単位で広げていきたい。鹿児島の「やねだん」という約200人の集落では、全員の顔と名前が分かり、人口構成の将来も住民自身が分析してまちづくりを行っています。そんな小さな単位の積み上げが、最終的に大きな地域づくりにつながると感じています。私は『市長まちかどトーク』という地域まわりをしているのですが、地域課題の解決のために、住民の皆さんと直接お話しすることが大切だと思っています。その中で、市ができるものもあれば、できないものもある。住民の方の活動を支援して充実していくなど、現場に入り、声を聞きながらやらせていただくというのが、まず第一歩かなと思います。

炭谷：市長として地域まわりをされておられて、市民からはあんなことをして欲しい、こんなことをして欲しいと言われるかと思いますが、地域ではどのような解決方法を考えているか、自分たちはこんなことをするから市に応援して欲しいという声も聞けるといいでですね。

出町：「一緒にしましょう」と伝えることで、地域の方の励みとなり、さらに取り組んでもらえるような、よい循環が生まれればと思います。

行政と住民が「同じ現場」を見るために

出町：私は市職員に対し、「もっと現場に出よう」と伝

えています。地域の課題解決に向き合う職員が増えれば、地域がよくなると思っています。

炭谷：市社協でも地区担当制を設けましたが、「自分の地域」を持つと職員の意識は本当に変わります。縦割りは法律の構造上どうしても生まれますが、それを横につなぐのは、やはり現地・現場だと思います。

出町：その通りです。

炭谷：現場で市と市社協、福祉施設など関係者が顔を合わせることで、「市社協は何をする」「市は何をする」「市職員は何をする」「施設は何をする」という役割を共有し、一つの目標に向かって動き出すことができます。

安全・安心のまちを支えるために ——個別避難計画の作成

出町：市では個別避難計画の作成を進めていますが、全体の進捗はまだ20%程度。今後は福祉サービスの事業者や市社協含め、いろいろな方々に協力してもらい、少しでも広げようと思っています。災害時、本当に助けが必要な方を誰がどう支援するか、日頃から把握しておくことが重要です。そのためにもご近所同士の顔の見える関係が大事です。

炭谷：地域で集まった時に簡単に自己紹介し合うだけでも、防災力は大きく向上します。市や市社協は、地域のつながりを強める場づくりをよりよい形で進められるよう、地域に関わっていくことが大切だと思います。

教育の必要性

出町：共生していくためには、相手を思いやる心を持つことが大切です。結局、建物をつくっただけではまちは変わりません。変えるのは“意識”です。困っている人がいたら助けようという気持ち、声をかける一步、小さな行動。それが積み重なって大きな変化になる。教育を通じて、その“意識”を変えていく必要があると感じています。

炭谷：その通りです。生まれた時から高齢になるまで、お互いを思いやり、役割を持って生きるという“生涯教育”が重要です。「私も大事」「あなたも大事」という価値観を育むことが、共生社会につながります。



また、小さな成功体験を積み重ねることが重要です。ゴミを拾ったり、隣人に挨拶をしたりと、身近なことから始めることが大きな変化につながります。

出町：こうした力が積み重なれば、地域の課題解決にもつながります。子どもたちがそんな教育を受けて、将来「高岡で学んだことが役立った」と言ってくれると嬉しいですね。



炭谷：高岡で育った子どもたちが地域愛を持ち、優しさや思いやりも自然に身につけることが大切です。「私は私」という考えも大事ですが、「お互い様」と支え合う意識も大事です。

子育てしやすいまちに向けて

出町：現在、深刻な問題だと感じているのは、毎年の出生数の減少です。市では、0歳児に対するおむつ支給を実施しています。これは、今の経済的な負担を軽減するための一つの方法だと考えているからです。また、育児における精神的なサポートも非常に重要だと思っています。よく耳にするのは、一人で子育てをしているお母さんが育児ノイローゼになってしまうという話です。そのため、二人目を考えないという家庭も増えている現状があります。出生数が減少していく中で、どのような支援やケアができるのかを真剣に考え、ひとつひとつ実行していきたいと思っています。

炭谷：産後ケアなど市はいろいろなことを行っておられます、特に、『こんなにちは赤ちゃん訪問』は非常にいい試みです。これらの試みが、必要な人のところに届いているかが大切だと思います。また、皆で子育てしていくことの楽しさのようなものが伝わればと思います。

「住みたいまち 高岡」の実現に向けて

出町：伝えたいのは、行政も住民も失敗を恐れず一緒に行動しましょうということです。成功の反対は失敗ではなく、“何もしないこと”だと思います。私自身、選挙も受験も就職も、失敗した経験があります。でも、小さな成功を積み重ねながら一歩ずつ進んできました。行政も住民も一緒にチャレンジし、動き出すことで、「住みたいまち 高岡」が形になっていきます。

炭谷：私も「やらずに後悔するなら、やって後悔する」派です。身近な小さな「いいな」を一つずつ実現できればいいのかなと思います。やりたい人がチャレンジしやすく、応援し合える——そんな高岡であってほしいと思います。

出町：小さな成功体験がまち全体を動かす力になります。皆さんのチャレンジを、全力で応援します。ともに、「住みたいまち 高岡」をつくっていきましょう。

社会福祉協議会の事業は、地域の皆さまの力に支えられています。

ご協力いただきありがとうございます

令和7年度実績
(令和7年12月1日現在)

①会 費

6,614,250円

②賛助会費

1,665,000円

協力企業・団体のみなさま

- ・あしつきふれあいの郷
- ・雨晴苑
- ・(特非)憩いの家
- ・いなば農業協同組合福岡支店
- ・小野医療器(株)
- ・介護老人保健施設きぼう
- ・かたかご苑
- ・香野苑
- ・(有)北日本警備保障社
- ・暮らしのサポートセンター
- ・(福)くるみ
- ・(特非)工房ジョ・イン
- ・小間印刷(株)
- ・(株)サンシステム
- ・JA高岡女性部
- ・塩谷建設(株)
- ・志貴野苑
- ・しきのケアセンター
- ・志貴野長生寮
- ・志貴野ホーム

- ・新生苑
- ・(株)スリーティ運輸ヘルスケア事業部
- ・だいご苑
- ・高岡愛育園
- ・高岡交通(株)
- ・高岡市医師会
- ・高岡市きずな子ども発達支援センター
- ・高岡市更生保護女性会
- ・高岡市歯科医師会
- ・高岡市児童クラブ連合会
- ・高岡市シルバー人材センター
- ・高岡市地域活動クラブ連絡協議会
- ・高岡市手をつなぐ育成会
- ・高岡市農業協同組合佐野支店
- ・高岡市保育士会
- ・高岡市保育所・認定こども園連盟
- ・高岡市保護司会
- ・高岡市ボランティア連絡協議会
- ・高岡市民生委員児童委員協議会
- ・高岡商工会議所

- ・(公財)たかおか女性アカデミー
- ・高岡市連合自治会
- ・高岡市老人クラブ連合会
- ・高岡信用金庫本店
- ・高岡地域精神障害者家族会あしつき会
- ・地域活動支援センターふきのとう
- ・地域女性ネット高岡
- ・(福)手をつなぐ高岡
- ・富山県高岡看護専門学校
- ・認知症・介護を考える会
- ・のむら藤園苑
- ・(福)伏木会
- ・藤園苑
- ・二上万葉苑
- ・鳳鳴苑
- ・(株)ホクタテ
- ・やすらぎ
- ・やべの里

(敬称略、50音順)

①会 費

1世帯あたり150円を自治会や
校区社会福祉協議会を通じていただいている

②賛助会費

個人	□ 5,000円
法人	□ 10,000円

本会の趣旨・活動に賛同して
いただける団体や企業の皆さんにいたしています。

★会費はどのようなものに活用されているの?



夏休みに開催している「ボランティア体験学習」で、小学生が手話に挑戦している様子

集まった会費はこのような活動に使われています。

- 地域福祉活動、ボランティア活動の推進
- 校区社協活動の推進
- 生活困窮者への支援事業
- 車椅子の貸し出し等生活を支える事業の実施
- 福祉の情報発信

など

「地域に貢献したいけれど、
仕事が忙しくて直接の活動は難しい…」という方も、
賛助会員として地域活動に貢献いただけます。



皆さまのご協力をお待ちしております。

【問合先】総務企画課 TEL: 23-2917

第20回 高岡市社会福祉大会



10月8日、高岡市ふれあい福祉センターにおいて、第20回高岡市社会福祉大会を開催しました。

式典では、出町市長から、長年高岡市の地域福祉活動の推進に貢献された尾崎憲子氏へ高岡市長感謝状の贈呈、炭谷社会福祉協議会会長から、福祉分野で功労があった33名と1団体への表彰を行いました。

記念講演では、横須賀市民生局福祉こども部地域福祉課終活支援センター主査 北見万幸氏を講師にお招きし、「遺骨が鳴らす警鐘を聞こう～横須賀市2つの終活支援～」と題して、生前における死後課題の相談窓口の必要性、孤立を防ぐために今からできることについて、実際に横須賀市で行われている終活登録事業の紹介も交えながら講演をいただきました。

(以下、敬称略)

第20回 高岡市社会福祉大会

■高岡市長感謝状

尾崎 憲子

■高岡市社会福祉協議会会長表彰

《民生委員児童委員功労者》

竹内 善敬 山田 哲

《社会福祉施設役職員功労者》

浅野 正治 五十島 大 岡嶋 恵美
北川依都美 武田万利子 谷口 順美
宮本 寛子

《社会福祉団体、関係団体役職員功労者》

大野 幸生

金森 修治
宮本 愛子

《ボランティア活動功労者》

石黒 文子	石田 栄子	岩脇 三雄	奥原 理
奥村 勝美	尾山 順子	金井 弘子	木谷 悅子
清水 治吉	鶴谷 牧子	橋本 昭子	朴木 行子
堀 道代	安田とし子	山崎 博	山本美智代
横田 喜子			

《ボランティア活動功労団体》

福岡いきいき脳トレクラブ

■高岡市社会福祉協議会特別功労表彰

澤田稚佳子 中尾 一郎 日和 祐樹 松本 靖彦

第72回 富山県社会福祉大会

※高岡市在住の方のお名前を掲載しています

■富山県知事表彰

《優良民生委員児童委員の部》

谷内 信行 前田 利男

■富山県知事感謝状

《永年勤続民生委員児童委員の部》

海老江和夫 小栗 庄市 尾崎 憲子 金田 秋雄
河西美知子 久保千代子 鞍田 悅子 坂本 一穂
佐脇 修司 立浪 照美 長森 聰子 松井眞由美
宮村 静雄

■富山県社会福祉協議会会長表彰

《民生委員児童委員功労者の部》

参納 和雄 高桑 淨誓

《社会福祉事業関係功労者の部》

●児童福祉施設

片山 茂美 鳥内 香 宮本 寛子

●老人福祉施設

上田 晃子	上田 佳広	押川 朋子	兼松 朋絵
草島 美幸	高嶋 一正	坪内 理香	手塚 裕子
戸田 久美	牧野 正裕	松井 環	宮本 美雪

●障害者福祉施設

藪中さおり

《ボランティア活動功労団体》

おもちゃ病院 射水 中田もえぎの会

■富山県共同募金会会長感謝状

《篤志寄付者の部》

川端 律子 小森 茂暢 古瀬伊都子

第37回 富山県民ボランティア・NPO大会

■ボランティア活動推進富山県民会議会長表彰

●個人 尾山 弘子 島 道子 前田 葉子
松崎 勇 山崎 恭世

●団体 ぐりとぐらの会

■ボランティア活動推進富山県民会議会長感謝状

●個人 河合 雄子 塩川 和祐

福祉への善意 あなたから

令和7年9月1日
～令和7年11月30日

市社協では、善意のご寄付をお待ちしています。お寄せいただいた净財は、ボランティア活動の推進や、各種社会福祉事業などに活用させていただきます。皆さまの温かいご支援をお願いいたしました。(各項目50音順、敬称略)

《寄付物品》

◆使用済み切手

武島 孝子
吉田 喜久男
匿名 7名

◆ベルマーク

武島 孝子
匿名 4名

◆書き損じ・ いねむりはがき

匿名 2名

◆食料品

株石沢商事
株ダイナム
田中 健次
棚田 誠

吉野 和子
匿名 1名

◆日用品

匿名 3名

《生活困窮者等支援事業等》

青井 博	500,000円
田中 健次	10,000円
棚田 誠	10,000円
成瀬 隆倫	100,000円

ご協力ありがとうございました。

生活支援コーディネーターは、

地域の皆さんと

世代や特性にかかわらず

「人と人がつながることができる地域づくり」

に取り組んでいます。



具体的には、

- 地域の皆さんの活動のサポート（居場所づくりや見守りなど）
- 地域の困りごとへの情報提供やサービスとのマッチング
- 地域の皆さんの話し合いの場づくり

など

太田地区

防災についての住民アンケート



《担当コーディネーターより》

太田は防災意識が高く、実行力がある地域です。アンケート結果をもとに、太田地区の皆さんと意見交換するのが今から楽しみです。



太田地区の社協会長より防災に力を入れたいというお話を聞き、住民アンケートを実施しました。

社協会長を通して連合自治会長や防災士の方には内容の精査を、各自治会には配布や回収を、民生委員には一人での回答が難しい方への助力をお願いしました。

今回、アンケートの調査結果はもとより、調査の過程で地域のいろいろな方と顔を合わせられたことがコーディネーターとして何よりの成果だと思います。

今後はアンケート結果をもとに地域の方々に話し合っていただく予定であり、防災について考えるきっかけになればと考えています。

戸出地区

戸出6丁目通いの場

約2年前、戸出6丁目の老人クラブの有志で地域住民の集いの場を開設しました。

最初は住み慣れた地域でいつまでも元気に過ごすことを目標としていましたが、在宅生活は難しいと言われた方が自宅での生活ができるようになるまで回復したり、ねんりんピックのeスポーツ競技「太鼓の達人」の全国大会出場者を輩出するまでになったりと、活動する中で運営スタッフにも大きなやりがいが生まれました。

しっかりとした運営基盤を構築したいとの思いから運営者と議論を重ねた結果、10月4日に通所型サービスB事業^(*)へ移行しました。



《担当コーディネーターより》

このサロンは地域の皆さんの主体的な運営のもと、発展してきました。コーディネーターとしても学ぶ点が多く、更なる発展のために今後もサポートをしていきます。





※通所型サービスB事業・訪問型サービスD事業

通所型サービスB・・・地域住民が主体の介護予防や生きがいづくりの場

訪問型サービスD・・・通所型サービスBに通うのが難しい方などの外出支援

この活動は、高齢者の外出の機会づくりにもつながっています。

牧野地区

まきのお喜楽サロン よらんまいけ



《担当コーディネーターより》

参加者・運営者の両者が笑顔で参加されているのが印象的です。地域をよりよくしたいという思いで、活動されている姿は市社協職員としても学びになります。



牧野地区では、住民主体でつくる要支援者等の通いの場である通所型サービスB事業^(*)「まきのお喜楽サロン よらんまいけ」を実施しています。

また、通所型サービスBへ通う方の送迎や医療機関への送迎を行う訪問型サービスD事業^(*)も実施しています。

通いの場の参加者からは「よらんまいけに来ると元気になる。」と好評で、地域の方の交流の場になっています。通いの場と送迎を一体的に実施することで、地区内の方が外出をする機会の創出にもつながっています。

守山・二上地区

二上万葉苑による移動支援

二上万葉苑より

軽自動車の
寄付を
お願いします!



二上万葉苑では、施設の空車両を使って、要支援1・2の認定を受けている方の移送サービスを行っています。

時々車両が不足することがあり、軽自動車の寄付を募集することとしました。

よろしくお願ひいたします。

問合先▶二上万葉苑

TEL : 0766-25-0808
(担当:西、島、岡本)

◀運転及び付き添いボランティアセミナーの様子



地域の「こんなことがしたい」、「こんな場所があつたらいいな」などの実現に向けて、今後も地域の皆さんと一緒に考えていきます!

